令和8年度全国学力・学習状況調査　妹背牛町内の状況及び今後の改善方策

小学校数:1校、児童数:10人　中学校数:1校、生徒数:17人

○　教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

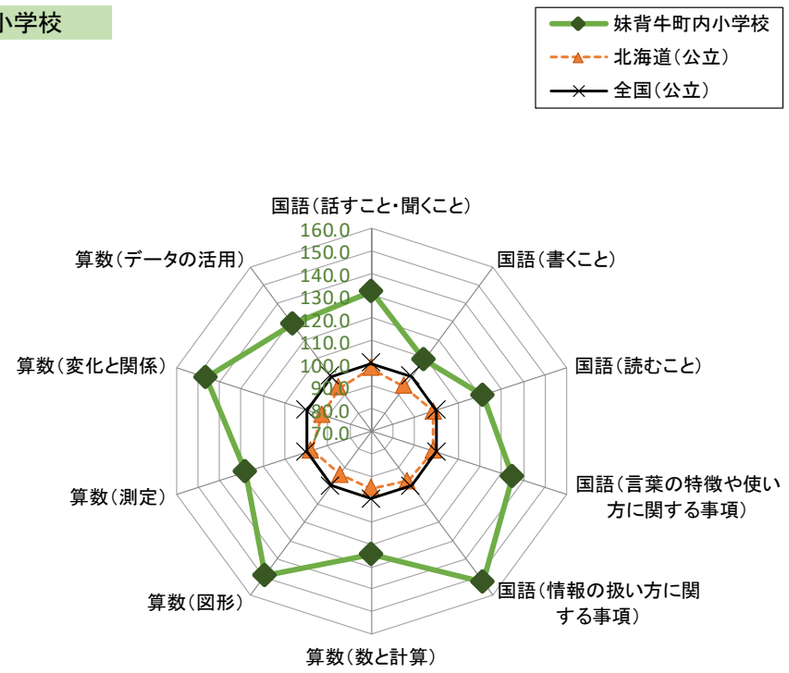
・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

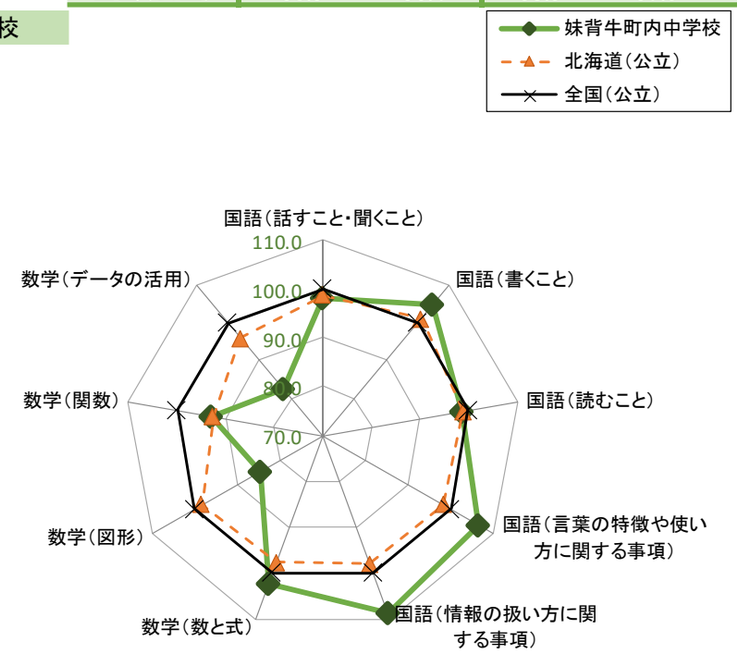
※中学校英語は4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
妹背牛町	80	75	66	53	506
北海道（公立）	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499

小学校



中学校



☆教科に関する調査結果の要因☆

小学校では、国語・算数とも全国・全道平均を上回った。国語の「言葉・情報」や算数の「図形・測定」などで、基礎的な知識・技能を生かし、資料や条件を読み取って考える力が身に付いていることが、結果の背景の一つとして考えられる。

中学校では、国語・英語とも全国・全道平均を上回った。国語の「言葉・情報」、英語の「聞く・読む」などで、基礎的な力が身に付いていることに加え、話合いや資料をもとに考えを整理する力が身に付いていることが、結果の背景の一つとして考えられる。

☆今後の改善方策☆

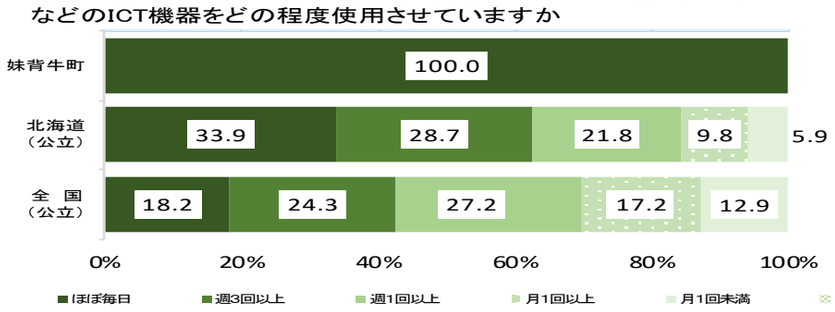
◎日常的な対話活動や考えの整理・発表など、学習場面に応じたICT機器の効果的な活用を進める。
◎自ら見通しをもって学習を進め、根拠や思考の筋道を明確にして表現する力を育てる指導を進める。
◎各教科の基本的な概念や知識・技能について、具体的な活用や振り返りを通しての確実な定着を図る。
◎小・中学校での学習内容の系統性を意識した授業改善を進め、基礎的な力を中学校での深い学びにつなげる。
◎家庭学習の習慣や内容の充実に向け、学校・家庭・公設塾が連携し、児童生徒の学習習慣の確立を継続的に支援する。

○　質問調査の状況

小学校

＜学校質問＞

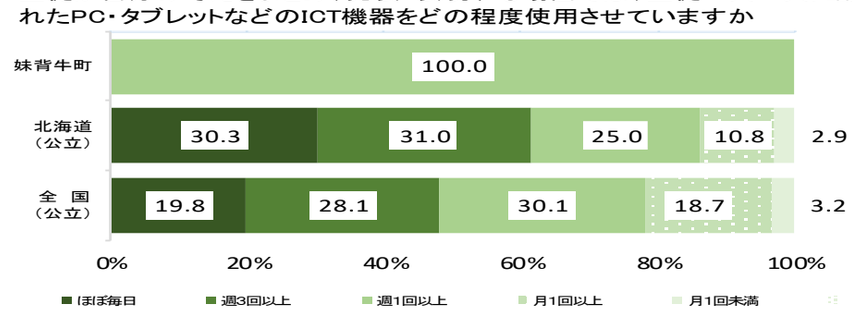
児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

＜学校質問＞

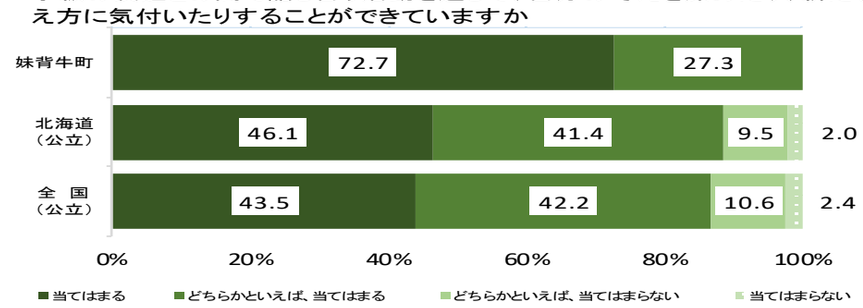
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



小学校

＜児童質問＞

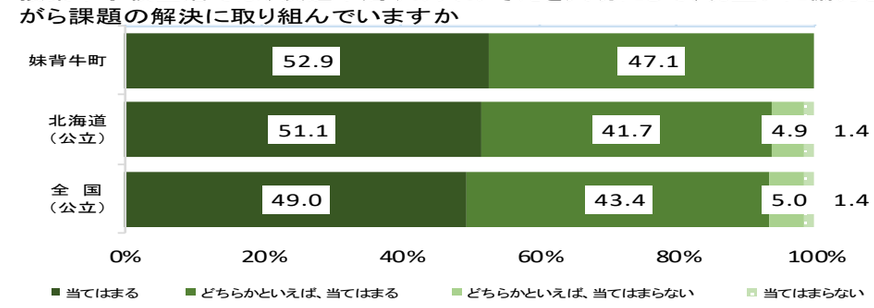
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



中学校

＜生徒質問＞

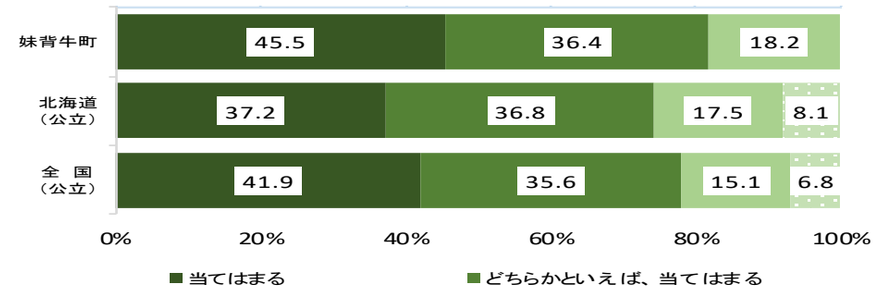
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



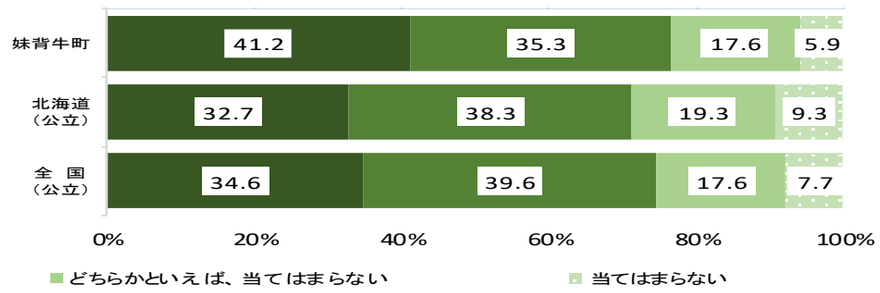
小学校

＜児童生徒質問＞

算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



中学校



☆質問紙調査結果の要因☆

小学校では、児童同士の話合いを通して考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすること、また、算数の授業内容を理解していること、さらに児童同士の意見交流の場面におけるICT機器の活用頻度について、いずれも全国・全道と比較して高い状況が見られる。こうした対話を通して考えを深める学習や、学習内容の理解を大切にした授業づくりが、学習への前向きな意識の背景あると考えられる。

中学校では、友だちや周りの人の考えを大切にし、協力して課題に取り組むこと、数学の授業内容を理解していることについて、全国・全道と比較して高い状況が見られた。また、生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面などにおいてICT機器が活用されている。こうした、協働的な学習や、自分の考えをまとめて表現する学習活動が、学習に対する前向きな意識の背景あると考えられる。